

オーストリアの COVID-19 対策タイムライン

高木裕貴（京都大学大学院文学研究科研究員）

2020 年

2 月 26 日、国内初の感染が確認される。

3 月 10 日、学校や大学を休校とし、集会を禁止し、近隣国への移動を制限した。このような規制はヨーロッパで初であった。

3 月 16 日から 5 月 1 日までロックダウン（ドイツやイギリスではまだロックダウンは実施されておらず、フランスは同日に実施）。ただし、比較的規制は緩く、外出自粛は要請されたものの、三つの理由（必要な職業活動、必要な買い物、他人の援助）による外出であれば許可証は不要。

一人もしくは同居する同僚の人との外での活動

4 月 6 日から、スーパーやドラッグストアに入るときはマスクが義務になり、マスク不着用の場合は 25 ユーロ（約 3000 円）の罰金。

5 月 11 日、学校再開（高学年から）。

11 月 3 日、二回目のロックダウン。

11 月 17 日から 12 月 6 日までの期間、ロックダウンを強化（ただし外出禁止は 11 月 26 日までの措置）。

2020 年 12 月 26 日から 2021 年 1 月 17 日まで、三回目のロックダウンが実施される。2 回目のロックダウンより厳しい内容となる。

2021 年

1 月 4 日、18 日に予定されていたロックダウン解除が 24 日まで延期となる。

1 月 17 日、ロックダウンを 2 月 7 日まで延長する。

2 月 1 日、2 月 8 日から感染対策の強化を条件に制限措置を一部緩和（小売店、美術館・博物館、動物園の再開など）することを発表した。

5 月 17 日、学校では対面授業を再開する。ただし、低学年は通常マスクの着用、高学年は FFP2 マスクの着用と、週 3 回の検査が義務付けられる。

5 月 19 日、ロックダウンを大幅に緩和。

11 月 15 日、12 歳以上のワクチン未接種者のみを対象とする行動制限（ロックダウン）を導入

11 月 22 日、四回目のロックダウン。

11 月 30 日、ロックダウンの延長が決定。12 月 11 日までのロックダウンとなる。

2022 年

1 月 20 日、オーストリア議会下院は新型コロナウイルスのワクチン接種を義務付ける政府提出の法案を可決した。3 月中旬から接種の有無のチェックを始める予定。妊婦や医学的な理由で接種ができない人は対象外。免除理由なしに未接種者が接種を拒否し続ければ、最大 3600 ユーロ（約 47 万円）の罰金が科される予定。

2 月 1 日から、成人のワクチン接種を義務化。

3 月 11 日、3 月 16 日よりワクチン未接種者への罰金制度を導入する直前であったが、ワクチン接種義務化を一時停止。

6 月 23 日、本制度がワクチン接種率向上にはつながらないとして、ワクチン義務化撤廃を発表。

8 月 1 日、新型コロナウイルス感染者に対する隔離措置を廃止。抗原検査または PCR 検査で陽性の場合、感染者に対して自宅での自主隔離ではなく、接触制限措置を取る。新型コロナウイルスの感染報告義務は従来どおり継続。

コメント

オーストリアでは、ワクチン未接種者に限定したロックダウンや、全市民に対するワクチン義務化を実施する（これは欧州初）など、ワクチン接種を積極的に推進していたが、これには「ワクチン差別」「ワクチンの強要」といった倫理的観点からの反発が強かった。

※本資料の作成にあたっては、以下の資料を参照した。

・ ウェブサイト「パンデミック ELSI のアーカイブ化」のタイムライン
(<https://www.pandemic-philosophy.com/>)